

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000211
法人名	有限会社 都紀
事業所名	立野紀水苑
所在地	佐賀市東与賀町大字下古賀60番1 (電話) 0952-45-7281

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月18日	評価確定日	平成 21年4月5日

【情報提供票より】(平成21年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	4人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	諸隈病院 下平歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の一角にあるが、周辺はのどかな田園も見渡すことができ、歩いて行ける距離にスーパーもある。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しく」をモットーに、家庭的な雰囲気で行々の生活をおくることができている。配食サービスにより、栄養バランスの取れた食事の提供が来ている。また、苑外活動としてドライブや買い物に出かける機会が多く、他グループホームとの交流会も多い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議には地域住民の参加を得、地域行事の情報を収集し可能な限り参加している。また、サービス担当者会議の記録の整備など、改善に向けて取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が外部評価の内容を把握され、カンファレンスで意見を出し合って自己評価を作成され、具体的な改善に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>グループホームの行事の日に連続して、運営推進会議を行うことで参加促進が図られている。近隣住民の代表、ご家族、地域包括支援センター、民生委員も参加し、ホームの状況を伝えるなどして、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情箱を設置したり、面会時に職員から積極的に話しかけるなど、意見や不満をキャッチして、運営に反映させるよう取り組まれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>「地域の中でふれあいのできる施設を目指します」との理念が掲げられ、御神輿担ぎ、子どもクラブ、区役等、町の行事に積極的に参加し、地域の人々と交流がある。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域のなかでふれあいのできる施設を目指します」との理念を掲げられ、その中でその人らしく暮らし続けることを支えていく取り組みがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内各所に理念とモットーが掲げられ、職員全員が日々確認しながら理念の実践がなされている。また、月一回のカンファレンスでも理念とモットーを確認されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	御神輿担ぎ、子どもクラブ、区役等、町の行事に積極的に参加し、地域の人々と交流することに努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価の内容を把握され、カンファレンスで意見を出し合って自己評価を作成されている。評価によりサービス内容を見直すなど、具体的な改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの行事の日に連続して運営推進会議を行うことで参加促進がはかられている。近隣住民の代表、家族、地域包括支援センター、民生委員も参加し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームで作成している便りや報告書は直接持参し、顔の見える関係づくりに努め、市町とともにサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや面会時、また電話連絡にて、随時入居者の生活状況がわかるよう報告されている。また、便りの一部は入居者自身に書いてもらい、家族に様子が伝わりやすい工夫がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱の設置や面会時に職員から積極的に話しかけ、意見や不満をキャッチし、運営に反映させるよう取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合は、十分な引継ぎを行い、入居者が受け入れやすいよう配慮されている。また、入居者が不安をもたないように、系列の他事業所合同の行事を催し、普段から馴染みの関係作りがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フランチャイズ本部の勉強会等に参加し、知識や質の向上が図られている。	○	研修参加を希望した職員が参加できるように、研修案内等の情報については、職員全員に周知できるよう工夫されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズグループホーム間でネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前に見学、数時間の体験利用等、入居者や家族が納得した上でサービスを利用し、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活や行事のなかで、入居者や家族、職員が喜怒哀楽を共にする関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向が支援に活かされるよう、言動を否定せず見極め、ペースにあった支援の取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスの前には家族から意見を伺い、情報収集したことを会議に反映させている。本人がより良く暮らすための課題を見出し、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングで評価・見直しが行われ、状態変化時にはその都度カンファレンスを開催し、本人、家族に説明のうえ新規計画や追加プランが作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況と要望に添い、通院や看護師との連携は24時間体制で対応できるよう、柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員にかかりつけ医があり、変化があるときには適切な対応ができる体制が整えられている。また、月一回の往診と定期健診で、入居者の状態把握ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時に説明し本人や家族と話し合い、方針を確認、共有したうえで支援が開始される仕組みができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては玄関に掲示されている。また、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしないようされている。職員は、個人情報の守秘義務について誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースを把握し、本人の希望を最優先して支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は入居者と職員が一緒に行われているが、職員は入居者の食事中は業務や介助に専念している。	○	可能な限り職員も一緒に食事をし、入居者と食事を楽しむ取り組みを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい、家族面会時に孫と一緒に入りたい等、入居者の希望に添った入浴の支援をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道や行事の司会等、生活歴や入居者の特技や力を活かした役割をもってもらい、一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑外ドライブ、入居者の状況に応じた散歩や買い物日々取り入れられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	誰でも自由に入出入りできるよう、日中玄関は開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を活用し、地域の人々への協力を求める働きかけや地域の消防団への依頼が行われている。年に二回、隣接の有料老人ホームや入居者家族、地域住民も参加して消火・避難訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フランチャイズ本部の管理栄養士による、バランスの取れた献立での配食サービスを利用されている。また、食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態に応じた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り入れ、日差しの調整も随時行われている。花や季節の飾りで居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの家具、小物を持ち込んで本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		